

2012年4月12日

新宿区内の小中学校長、幼稚園長、保育園長、子ども園長、栄養士のみなさま

この春の子どもの生活に関するお願い

子どもを放射線から守る新宿の会

<http://shinjyukunoradiation.jimdo.com/>

shinjyukunoradiation@gmail.com

日ごろから子どもたちの健やかな成長と豊かな生活のためにご尽力いただき、ありがとうございます。また、昨年秋以降、各校や園、子ども関連施設などにおいてさまざまに放射線対策を行ってくださっていることを心より感謝申し上げます。

原発事故から一年がたちました。相変わらずさまざまな食品から高い値の放射性物質が検出されていることが報道されています。都内の学校や園の敷地内や土壌からも、一部「マイクロホットスポット」と呼ばれるような高い値も検出されています。

この現状のなかで、子どもの健康を守るために何ができるのか、少しでも不安は取り除き、できるだけのことをしていきたいと、私たちは考えます。子どもたちのしあわせが私たちのしあわせであるからです。

事故後およそ一年の間、区長をはじめ、教育委員会や子ども家庭部、環境課の方々と意見交換の場を何度かいただいて参りました。

その結果、最近では測定や除染を前向きに行ってください、またこのたびは給食などの食品を測定する機器の購入も決まり、私たちも大変感謝しています。

かけがえのない子どもたちに確かな未来を手渡すために、私たち大人ができることのすべてをしなければならぬと思います。

私たちは、子どもの命の尊さを知っておられる先生方と一緒に、力をあわせて取り組んでいきたいと願っております。なにとぞお力をお貸しいただきたく、お願い申し上げます。

●安全な給食のために

給食食材の産地の公開をしていただき、ありがとうございます。

この4月から食品の基準値が見直されましたが、市場にはこれまでの基準値が適用されたものと新しい基準値をクリアしたものが混在することになり、当面この混乱は続くと思われます。新しい基準値も、震災前と比べれば何倍もゆるい値であり、放射線の影響を最も受けやすい幼児や食

べ盛りの小中学生にとって安全な基準とはけっしていえません。

子どもたちが毎日安心しておいしい給食がいただけるように、以下のことをお願いします。

1.

たいせつな**主食であるお米**は、放射能汚染が少ないと考えられる西日本産のお米をできるだけ仕入れてください。

2.

その他の食材も、汚染が心配される東北・北関東地域産のものはできる限り避け、西日本産のものを仕入れてくださるよう、仕入れ業者さんへの呼びかけをお願いします。

3.

放射性物質を蓄積しやすいとされる**きのこ類、山菜、柑橘類、いちご・ベリー類、沿岸部や淡水に棲む魚介類**などは給食メニューから外していただくような工夫をお願いします。そうした食材をあえてメニューに登場させなくても、代替となる食品はほかにたくさんあります。

4.

牛乳の産地についてはとくに注意を払ってください。他の自治体では、つい最近も保育園で出された牛乳（近所の業者から仕入れたもの）から放射性セシウムが検出されています。

●生活・行事について

春の遠足や運動会、校外学習、修学旅行のシーズンです。子どもたちが楽しみにしている行事がたくさん予定されていることと思います。しかし、放射性物質の除染はごく限られた地域で始まったばかりで、森林や畑に降りそそいだ放射性物質が土壌に残っていることが考えられます。

自然と触れ合う体験や、学校や園の外で学ぶ機会は大変貴重なものだと思いますが、そのことによる健康への影響が心配です。

子どもたちが不必要に放射性物質に触れたり、吸い込んだりしないように、また送り出す親たちも必要以上に心配せずに済むように、以下のご配慮をお願いします。

1.

遠足などの校外学習の予定地では、**放射線量を事前に測定**していただくなど安全を確認したうえで、保護者への案内をお願いします。都立公園（計測がほとんどされていない）への遠足、清掃工場や中央防波堤への社会科見学は行わないでください。

2.

今年度も**日光**への校外学習を予定している学校があると聞いています。**栃木・群馬・茨城・千葉**な

どは近県でも高い汚染が報告されており、毎年行っていた校外学習を取りやめた自治体（世田谷区、豊島区など）もあります。行き先が未定なのであれば、ぜひ今年だけでも変更をご検討ください。既に予約などが完了していて変更できない場合は、現地での過ごし方や食事などにじゅうぶん注意してください。たとえば、

- a. 線量マップなどを参考に、より線量の高い地域でのハイキングなどは避ける
- b. 線量計を持参し、滞在中の線量をチェックする
- c. 地場の食材の使用をできるだけ控えていただく
- d. 飲料水などについて、持参したい家庭があれば持ち込みを認める
- e. 地場産の薪を使ったキャンプファイヤーは避ける

3.

校庭の隅や雨どいなど、特定の場所に放射性物質がたまりやすいことが昨年秋以来の区の測定によって明らかになってきました。また、校庭に使われているアーバンコートやアスファルトなどは放射性物質が入り込み、とれにくいこともわかってきました。

運動会の練習が始まる前にそうした場所のごすり洗いをしていただくなど、砂埃が舞い上がらないような対策をお願いします。また、雨に濡れての練習も控えてください。

4.

学校で植物を栽培し、その収穫物を食べるところまでの学習カリキュラムがある場合、**収穫物を食べる／食べないの判断は保護者**にお任せいただけますようお願いいたします。

昨年度、既に教育委員会からそのような判断が示されています。

5.

放射線対策について、学校や園に相談してくる保護者が少ないとしても、それは心配していないことと同じではありません。私たちの会には「心配でも、学校や園にはなかなか相談できない」と言われる保護者のかたがたくさんいます。ふだんの家庭の食事や生活には気をつけていても、声を上げることにはためらいのある保護者が少なからずいるとお考えください。

何よりも子どもの安全と健康を第一に、測定結果などはできるだけオープンにさせていただき、みなさま方といっしょに考え、行動していけたらと思います。

以上、長々とお願いを書き連ねましたことをお許しください。ご多忙な先生方のご負担を増やすことになり大変心苦しく思いますが、何年か後に「あの時ああしていれば…」という後悔をしたくないとの親たちの気持ちを、少しでもお酌み取りいただければ幸いです。

なお、この文書は区内の全小中学校、幼稚園、保育園にお送りしています。ぜひ、区をあげて安全な学校・園づくりをしていただけますよう、ご理解、ご協力をお願いします。